

## 新たな改革が求められる時代

### — パンデミック後に適応できるか否かは、今決まります —

よくご存じの方が多いかと思いますが、経産省が2018年に発表したレポートで初めて「2025年の崖」という言葉が使われました。

その意味は「既存の老朽化、複雑化したITシステムが今のままでは、国際競争への遅れ、経済停滞を招き、2025年以降には、毎年12兆円程度の損失が生じてしまう」ということです。そうならないためには、DX（テクノロジーによる産業構造の改革）を早急に進めなければなりません。

そこで「IT人材不足だ、育成だ」と、声高に叫ばれていますが、抜本的な解決策は見出せていません。この問題の本質は“古くなって、適応障害を起こしかけている既存のシステム（ITだけでなく、事業や仕事のやり方すべて）を放置してきたツケが一気に回ってきたということです。これは、単にIT技術（業界）の問題ではありません。環境変化に気づいていながら、適応するための問題を「まだ、何とかなるのでは」と、先送りしてきたのが身の回りにないでしょうか？

例えば、「顧客のニーズが変化してきたことを感じながら、旧態依然とした営業方法を改革していない」「たびたび耳にする顧客の不満を解消する抜本策を打っていない」「新入社員の定着率の悪さを“最近の若者特有の傾向”として諦めている」等々。問題の先送りは、限界点に達するまでは表面化しなくても、ある時、一気に結果（業績悪化）となって表れてくるものではないでしょうか。

特に今、コロナ禍で何事も「とりあえず様子を見てから」と、先送り傾向が助長されがちです。問題の放置は、コロナ後にどんな結果を招くのか、まさに今、真剣に考え抜き、改革の手を打つべきではないでしょうか。

また、過去の歴史を見ても、パンデミック後には必ず大きな社会変化が起きています。変化はチャンスと捉えることもできます。そのチャンスを活かすためにも“今”が重要です。

弊社では、「経営改革のための社員教育プログラム」をご提案しております。内容は、貴社の個別事情を十分にコンサルティングさせていただき、オリジナルなカリキュラムを作成・実施いたします。教育対象は、改革を担うすべての階層・職種の皆様です。また、集合形式に限らず、オンラインによる研修も可能です。

まずは下記から是非ご相談下さい。ご相談・仮提案は無料でさせていただきます。



> お問い合わせはこちら